

英語科教育法 I (第10講)

書くことの指導



目次

- ▶ ライティングへの生徒達の関心
- ▶ スピーキングとの比較
- ▶ 従来の英作文の指導
- ▶ 機械翻訳について



ライティングは一番関心の持たれない技能と言われている。

- ▶ 大学ではライティングに費やされる時間は最も少ない。
- ▶ アンケートを取っても、ライティングが大好きという学生は少ない。
- ▶ コミュニケーション=スピーキングというイメージが定着している。
- ▶ ただ、text message のやり取りのように、writing が使われることが多い。
- ▶ スマホでの使い方において、人々は音声で会話するよりも、ラインのようにショートメッセージで対話する方を好む。この方がストレスが掛からない。



話し言葉と書き言葉の比較

話し言葉	書き言葉
音の強弱、イントネーション、ポーズを使って表現する。	大文字や小文字やpunctuation marks を使って表現する。
音声以外にgesture や顔の表情等を使ってコミュニケーションを図る。	文字以外に写真や絵を使ってコミュニケーションを図る。
話の途中で途切れたり、言い換えたり、トピックを変えたりすることができる。	文章が整理されている。文と文、パラグラフどうしが、論理的につながっている。



従来型のライティングの指導

- ▶ 昔のライティングの指導
- ▶ 自分が高校生のころの作文の時間は和文英訳がほとんどだった。自由英作文の時間はなかった。英作文の時間は「英作・文法」という授業の一環で、教員は例文を提示して、その文法的な内容を説明して、その例文を暗記させる。次はその例文を応用して、提示する和文を英訳させるという授業だった。
- ▶ 英作文は英借文と言われて、英文のパターンをいくつか覚えてそれを当てはめることが推奨された。



free writing (自由英作文)

- ▶ 課題作文が問題ならば、Free Writing である。
- ▶ 自由に何でも書いていい。質よりも量が大切だと言い聞かせて、白紙の紙を渡して、とにかくたくさん書けと指示を与えた。何でもテーマはいいということでは、テーマを決めるだけで時間がかなりそうだ。
- ▶ かえって題目を与えた方が学生や生徒も書きやすい。それで、私は、my future, my best friend, my family というようなテーマを与えた。文法的な間違いは構わない、という風に指示して、何でもいいから書くようにと指示した。なかなか書けそうもない。大学生でもこれだから、ましてや高校生や中学生に同じような指示を出しても難しいかもしれない。
- ▶ 日記を書かせて、教員が適宜チェックする。



書くという習慣を付ける。

- ▶ 子どもたちは英語で日記を付けさせる。
- ▶ 教員はそれを簡単に見て評価する。
- ▶ 子どもたち同士で英語でのレター交換をする。
- ▶ 外国人とメールでのやり取りをする。



パラグラフライティングの説明

- ▶ パラグラフライティングとは
- ▶ まず、トピックセンテンス（主題文）がある。
- ▶ 次に、サポーティングセンテンス（支持文）がある。
- ▶ 最後は、結論文がある。
- ▶ 西洋の文の構成は基本的にこの様になっている。
- ▶ 文を書くときに意識してもいいかもしれない。

Paragraph Writing

Paragraph writing basically consists of the following 3 points.

Topics:

Write a paragraph about an important person with whom you are very impressed with his/her actions or decisions.

Topic Sentence:

3-5 Sentences:

Detail 1:

Detail 1:

Detail 1:

Closing Sentence:



writing の法則

- ▶ cohesion (結束性) 接続詞や代名詞を使ってつながりをスムーズにする。
- ▶ coherence (一貫性) 内容や論理の一貫性や文章全体がまとまりあるものにする。



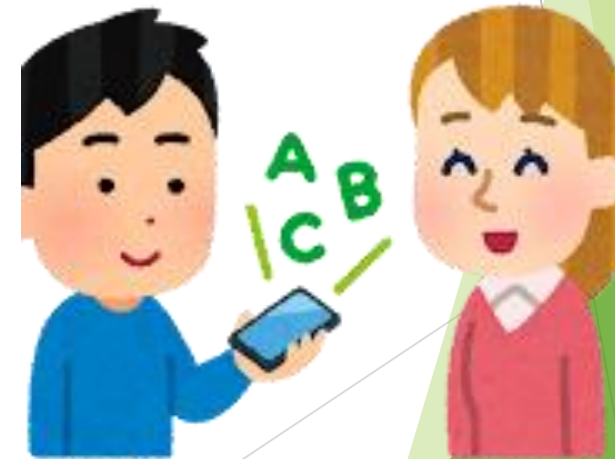
翻訳の3つの種類

- ▶ 現在、有名な翻訳ソフトとして3つほどあげられる。翻訳ソフトがあまりに手軽に利用できるし、正確なために、現代は、この翻訳ソフトとどのように向きあうのか、それをどのように利用すべきかの問題と直面している。
- ▶ google 翻訳
- ▶ chatgpt 翻訳
- ▶ deeple 翻訳



これらの翻訳機能を比較する。

- ▶ ChatGPT、Google、DeepL ではわずかにChatGPTの訳文が洗練されている、という印象を持つ。しかし、大学の教養課程の英語では、どの翻訳を用いてもほとんど変わらない。
- ▶ 従来は難しいと考えられていた、音声でも、機械翻訳が活躍をはじめている。



「この3つの翻訳機能の中でどれが一番すぐれているのか？」とChatGPTに質問を試してみる。

- ▶ ChatGPT: ChatGPT（私）は、自然言語処理のモデルとして幅広い応用が可能ですが、翻訳はその一部です。文脈によっては優れた翻訳を提供できますが、専門的な文章や複雑なテキストには限界があります。一般的な会話や文章の要約に向いています。
- ▶ Google翻訳: Google翻訳は、幅広い言語に対応しており、一般的な文章やフレーズの翻訳に優れています。ただし、文法や表現のニュアンスを正確に捉えるのは難しい場合もあります。広範なテキストの翻訳や旅行者向けの基本的なコミュニケーションに適しています。
- ▶ DeepL: DeepLは、特に欧州言語において非常に高品質な翻訳を提供することで知られています。文法や表現のニュアンスを比較的正確に捉える傾向があります。一般的な文章や専門的なテキストに向いています。



その他の積極的な活用法

- ▶ 1 学生の視点からの英語教育を考えられる。学生に勉強の相談をするように促す。(常識的な回答がかえってくるが、これでいいのだと思う。奇抜な提案は不要である。)
- ▶ 2 英語でのチャットを勧める。→英語で愚痴を言い合う。
- ▶ 3 教材の作成に利用できる。



text message の特徴

- ▶ あたらしい書き言葉の使い方→text する場合のmessage の書き方
- ▶ 一般に、大文字を使わない。
- ▶ i am going to gifu station next friday.
- ▶ 独特の略字を用いる。
- ▶ you- u for - 4 are-r
- ▶ i will do anything 4 u.



課題

- ▶ 子どもたちがライティングへ関心を持つようにする方法を考えよ。
- ▶ 機械翻訳をどのように活用するか方法を考えよ。
- ▶ 子どもたちの書いた英文を、教員はどのように訂正するか。

